

新技術情報提供システム（NETIS）
技術概要説明資料の書き進め方

令和5年4月版
北海道開発局
事業振興部技術管理課

目次

はじめに	1
1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報提供の範囲」	3
2. 「分類・区分」	4
3. 「キーワード」「開発目標」	5
4. 「開発体制」「開発会社」「問い合わせ先」	7
5. 「概要」	8
6. 「概要写真」「概要表」	9
7. 「新規性及び期待される効果」	10
8. 「効果写真」「効果表」	11
9. 「技術概要（アブストラクト）」	12
10. 「適用条件」	13
11. 「適用範囲」	14
11-2. 「適用される基準」	15
12. 「留意事項」	16
13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	17
14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」	18
15. 「その他技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	21
16. 「施工単価」	23
17. 「費用内訳表」「歩掛」	25
18. 「施工方法」	26
19. 「今後の課題とその対応計画」	27
20. 「施工実績」	28
21. 「特許・実用新案」	30
22. 「第三者評価・表彰等」	31
23. 「実験等実施状況」	32
24. 「添付資料」	33
25. 「参考文献」	34
26. 「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」 ..	34
27. 「比較表」	35
28. 「震災 NETIS」	36
29. 「維持管理 NETIS」	37

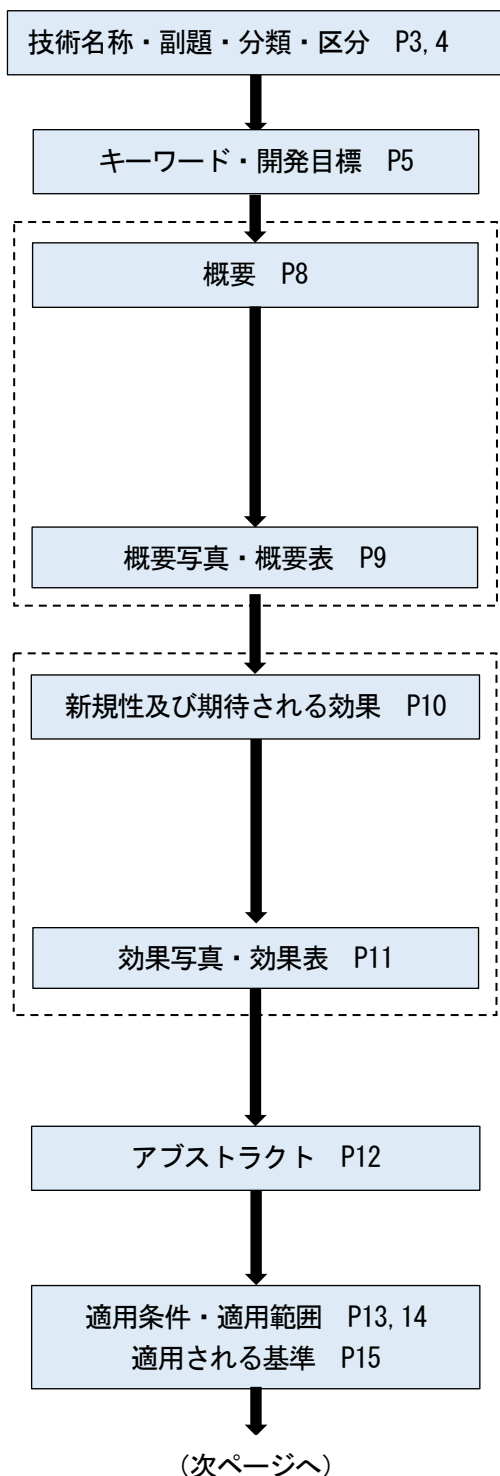
はじめに

○技術概要説明資料（様式 2）の目的

申請技術における開発目標や活用効果等の技術の特徴及び活用等における留意点を箇条書き等で分かりやすく記載することで、閲覧者に申請技術の内容を容易に把握し、申請技術を積極的に採用していただくために作成します。

○書き進め方

技術概要説明資料には様々な記入項目が用意されていますが、各項目はそれぞれが関連しているため下記の書き進め方に沿って記述して頂くと、書きやすいと思われます。



【従来技術との比較（6項目）】（P17～20）と整合するものを選択してください。

①「何について何をする技術なのか？」②「従来はどのような技術で対応していたのか？」③公共工事のどこに適用できるのか？」の各項目に対し、箇条書きで簡潔に記述してください。
* 記述の一部が、アブストラクト（P12）の構成要素となります。

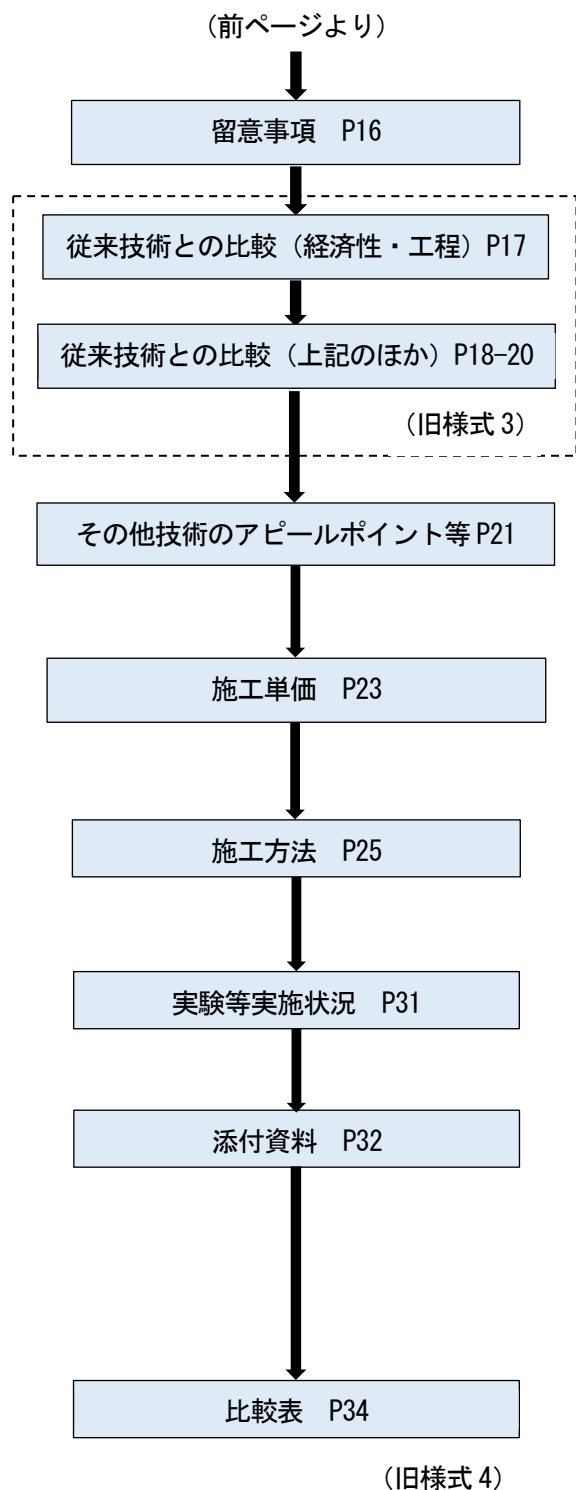
概要写真は申請技術全体が分かるような写真・図面にしてください。

①「どこに新規性があるのか？」②「期待される効果は？」の各項目に対し、箇条書きで簡潔に記述してください。
* 記述の一部が、アブストラクト（P12）の構成要素となります。

効果写真・効果表は従来技術との違いが判わかる写真・図面・表としてください。

【概要】（P8）の①「何について何をする技術なのか？」②「従来はどのような技術で対応していたのか？」、【新規性及び期待される効果】（P10）の②「期待される効果は？」に記述した内容で構成

適用にあたっての制約条件や適用可能な範囲、適用される基準について記述してください。



申請技術を使用するにあたっての注意点を記入してください。

「経済性、工程、品質、施工性、安全性、周辺環境への影響」について従来技術と比較した評価（向上・同程度・低下）を選択、比較のポイントを記載し、根拠資料を入力してください。

特に高い適用範囲等、従来技術の抱えていた課題等に対し新技術がどのような有効性をもっているのか、簡潔にまとめてください。

「従来技術との比較（経済性・工程）」の根拠となる施工条件、積算条件を入力してください。

従来技術と比較する形で、両方の工程の差が分かるような資料、フローを作成してください。

新技術の効果が実証される実験等の確認とその資料（根拠資料）は必須になります。

申請に関わる資料（積算、実験等）、技術の説明資料（仕様書、マニュアル、パンフレット等）及び根拠資料（従来技術、基準書コピー等）等を全て、pdf データとしてください。

比較表は「従来技術との比較」（p. 17～20）と整合を図りつつ、従来技術について新技術及び類似技術と対比できる形で記載してください。

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報提供の範囲」



※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」から行えます。
※「名称・分類」の「技術名称」に半角で次の特殊文字の入力があると保存、登録できません。¥/.*?*<>|

ご質問にお答えします！

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」 2. 「分類・区分」 3. 「キーワード」「開発目標」

① 技術名称

技術名称

新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書（様式1）で記載した技術名称と同様として下さい。

② 副題

副題

申請する技術の用途等を明確にした副題を記入して下さい。

③ 技術開発年

技術開発年

申請する技術を開発した西暦年を半角で入力して下さい。

④ 記入年月日

記入年月日

技術概要説明資料（様式2）を作成した年月日を半角で入力して下さい。

⑤ 情報提供の範囲

☒一般 ☐国土交通省のみ

情報提供範囲

原則、「一般」選択して下さい。

① 技術名称

申請する新技術の名称をフルネームで記入してください。技術名称は、登録申請書（様式1）と統一されたものとします。また、技術名称は技術の内容及び特色が容易に理解できる名称としてください。

（注）技術名称は基本的に変更できません。商標登録されていないか、既にNETISに登録されている技術名称と同一でないか、確認してください。また、名称に「新」を付けたり、型番や会社名を入れないでください。

② 副題

申請する新技術の用途等を明確にした「技術副題」を記入してください。

記載のポイントは以下の通りです。

- ・技術名だけでは不明なものを補完し、技術内容が十分把握できる副題。
- ・特にその技術の「売り」になっている内容を記載した副題。

※ 例えば、技術の説明的な単語が多く盛り込まれていて[①技術名称]が長くなっている場合に、[②副題]へ説明部分を移動し、受け持たせることによって、簡素で分かりやすい名称及びそのサポートをする副題と、役割を分担させることができます。

③ 技術開発年

申請する技術の開発年を西暦で入力してください。

④ 記入年月日

「カレンダー」をクリックし、記入日を選択してください。

⑤ 情報提供範囲

原則、「一般」を選択してください。

2. 「分類・区分」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」

2. 「分類・区分」

3. 「キーワード」「開発目標」

分類・区分 LV1から順に選択してください。(新技術が主に活用されるを分類1に入力してください。)分類一覧をダウンロード

①-1

分類1 レベル1 レベル2 レベル3 レベル4
▼ ▼ ▼ ▼

分類2 レベル1 レベル2 レベル3 レベル4
▼ ▼ ▼ ▼

分類3 レベル1 レベル2 レベル3 レベル4
▼ ▼ ▼ ▼

分類4 レベル1 レベル2 レベル3 レベル4
▼ ▼ ▼ ▼

分類5 レベル1 レベル2 レベル3 レベル4
▼ ▼ ▼ ▼

新技術を探す

検索キーワード

有用な新技術の選択

☐ 推奨技術 ☐ 準推奨技術 ☐ 評価促進技術 [説明](#)

☐ 活用促進技術

旧実施要領での技術の位置付け

☐ 活用促進技術 (旧) ☐ 設計比較対象技術 [説明](#)

☐ 少業種優良技術

工種

コンクリート工 ▼

コンクリート工 ▼

型枠工 ▼

一般型枠工 ▼

工種分類一覧

①-2
(NETIS HP)

②

区分 ▼

① 分類

分類1 から分類5 までの最大5 分類まで選べますが (①-1)、分類1 は原則として申請時に設定した下表の評価対象工種となります。分類2 ～5 まで、レベル1 からレベル4 まで順番にプルダウンメニューで選択してください。

表 評価対象工種 (分類1 のみ)

(レベル1)	(レベル2)
共通工	法面工 旧橋撤去工
付属施設	防護柵設置工 道路付属物工
道路除雪工	道路除雪工 道路凍結防止工
橋梁上部工	ポストテンション場所打ちホロースラブ橋工 ポストテンション場所打ち箱桁橋工 RC 場所打ちホロースラブ橋工 プレキャストコンクリート PC 床版設置工 架設支保工 橋梁用伸縮継手装置設置工 橋梁排水管設置工 歩道橋架設工

選択のポイントは以下の通りです。

- ・分類1、分類2 のレベル1 ～4 が NETIS ホーム画面の工種検索 (①-2) の対象となります。工種検索時にヒットさせることを考慮した選択をしてください。
- ・分類は官側でチェックを行い、申請者に修正を願う場合があります。

② 区分

該当する区分を下記の5 つの中から、プルダウンメニューにより、選択してください。

工法：材料、機械、製品、システム等を組み合わせることにより、工事の一部、あるいは全体を完遂させるに足る方法

材料：公共工事等において、加工、添加等されることにより用を成す原料、資材

機械：公共工事等に用いる建設機械、作業用機械

製品：公共工事等により製作、築造される物を構成する一部材であり、新たな加工を要さないもの

システム：材料、製品、機械等が体系的に組み合わせられ、公共工事等における工法、調査方法等を支援するものや、IT 等の先端技術を利用した情報システム、施工管理や維持管理に利用するマネジメント技術等を指す

3. 「キーワード」「開発目標」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」

2. 「分類・区分」

3. 「キーワード」「開発目標」

①-1

キーワード

- ☐ 安心・安全 ☐ 環境 ☐ 情報化
☐ コスト削減・生産性の向上
☐ 公共工事の品質確保・向上 ☐ 景観
☐ 伝統・歴史・文化 ☐ リサイクル

①-2

キーワード

キーワードは、最大で3つまで選択して下さい。
 自由記入欄は、技術提案を端的に表現する言葉を3つまで記入することができます。
 キーワードおよび自由記入欄は、各々最大3つを選択、記入が可能です（あわせて最大3つではありません。）

②

開発目標

- ☐ 省人化 ☐ 省力化 ☐ 経済性の向上
☐ 施工精度の向上 ☐ 耐久性の向上
☐ 安全性の向上 ☐ 作業環境の向上
☐ 周辺環境への影響抑制
☐ 地球環境への影響抑制
☐ 省資源・省エネルギー ☐ 品質の向上
☐ リサイクル性向上 ☐ その他

開発目標

最大で3つまで選択して下さい。

○キーワード・開発目標

キーワード、開発項目のチェック項目は技術の内容や特徴をとらえたものを選択してください。

①キーワード

- ・選択肢及び自由記入欄は各々最大3つ、計6つまで選択、記入が可能です。（あわせて最大3つではありません）
- ・下記の2つの項目で向上する項目と整合するように選んでください。（比較項目・キーワードの対応例をP6に示しますので、目安としてください。）
 【13.「従来技術との比較（経済性・工程）」（P17）
 【14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」（P18～20）
- ・①-1の8つの選択肢の中からキーワードを最大3つまで選択できます。
- ・①-2の自由記入欄にキーワードを最大3つまで、自由に記入することができます。（NETISは全文検索なので本様式内で使用されている単語は全て検索対象です。従って、本様式内で使用されていない単語をキーワードとするのも一つの考え方です。）

②開発目標

- ・12の選択肢と1つのその他（自由記入）から開発目標を最大3つまで、選択、記入することができます。自由記入欄は、選択肢に適切なものがない場合に使用してください。

表 比較項目・キーワードの対応例

比較項目	キーワード (選択肢3つ、自由記入3つ、計6つまで)
経済性	☐ コストの削減・生産性の向上（両者が達成される場合） ・コストの削減はするが、生産性は向上しない場合、自由記入欄に「コストの削減」と記入
工程	・工程が短縮する場合、自由記入欄に「工程短縮」と記入 ☐ コストの削減・生産性の向上（両者が達成される場合） ・コストの削減はしないが、工程が短縮し生産性が向上する場合、自由記入欄に「生産性の向上」と記入
品質	☐ 公共工事の品質確保・向上
安全性	☐ 安全・安心
施工性	・自由記入欄に「施工性」と記入 ☐ コストの削減・生産性の向上（両者が達成される場合） ・コストの削減はしないが、施工時における生産性が向上する場合、自由記入欄に「生産性の向上」と記入
周辺への環境	☐ 環境 ☐ リサイクル ☐ 景観
上記のうち 優先度の高いもの	☐ 情報化 ☐ 伝統・歴史・文化

「キーワード」は【13.及び14.従来技術との比較（6項目）】（P17～20）の比較項目で「向上」、「短縮」となっているものの中から、優先順位の高いものを選択してください。

経済性 ○向上 ○同程度 ○低下 変化値 — % 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 変化値 — % 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 変化値 — % 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 変化値 — % 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 変化値 — % 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 変化値 — % 比較のポイント	
	○短縮 ○同程度 ○増加 変化値 — % 比較のポイント	○短縮 ○同程度 ○増加 変化値 — % 比較のポイント	○短縮 ○同程度 ○増加 変化値 — % 比較のポイント	○短縮 ○同程度 ○増加 変化値 — % 比較のポイント	○短縮 ○同程度 ○増加 変化値 — % 比較のポイント	○短縮 ○同程度 ○増加 変化値 — % 比較のポイント
	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント
	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント
	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント
	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント
自由項目 (全角20文字) ○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	自由項目 (全角20文字) ○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	自由項目 (全角20文字) ○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	自由項目 (全角20文字) ○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	自由項目 (全角20文字) ○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	自由項目 (全角20文字) ○向上 ○同程度 ○低下 比較のポイント	

4. 「開発体制」「開発会社」「問合わせ先」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」

2. 「分類・区分」

3. 「キーワード」「開発目標」

4. 「開発体制」「開発会社」「問合わせ先」

5. 「概要」

6. 「概要写真」「概要表」

7. 「新規性及び期待される効果」

8. 「効果写真」「効果表」

①

開発体制 ☒ 共同研究（産・官・学） ☐ 単独（産） ☐ 単独（官） ☐ 単独（学）
☐ 共同研究（産・産） ☐ 共同研究（産・官） ☐ 共同研究（産・学）

開発体制は、1つ選択して下さい。
 開発会社は、申請する新技術を開発した会社名（正式な会社名）を記入して下さい。また、共同研究の場合は、該当する全てを記入して下さい。
 複数入力する場合は「、（区切り）」で記入して下さい。

開発会社

②

問合わせ先（技術）

会社名
 部署名
 担当者
 郵便番号
 住所
 TEL
 FAX
 E-MAIL
 URL

問合わせ先（営業）

会社名
 部署名
 担当者
 郵便番号
 住所
 TEL
 FAX
 E-MAIL
 URL

問合わせ先（その他） **項目追加** ドラッグアンドドロップで順番を変更可能です

項目追加

会社名
 部署名
 担当者
 郵便番号
 住所
 TEL
 FAX
 E-MAIL
 URL

追加 削除

①開発体制・開発会社

- ・開発体制は1つ選択して下さい。（「産・官・学」の目安を表に示します）
- ・開発会社は、申請する新技術を開発した会社名（正式な会社名）を記入して下さい。
- ・共同研究の場合は、該当する全てを記入して下さい。
- ・複数入力する場合、区切り文字は「、（読点）」で記入して下さい。

表 「産・官・学」の目安

産	株式会社、有限会社等の民間企業（NEXCO等の特殊会社、公営企業、第三セクター等は除く）
官	国（国土交通省、国土技術政策総合研究所等）、地方公共団体、国立研究開発法人（土木研究所、建築研究所等）、特殊会社（NEXCO、NTT等）、公営企業（水道、宅地造成等の公社、電力会社、ガス会社）、第三セクター
学	大学、工業高等専門学校等

②問合わせ先

- ・技術：申請する新技術の技術的な内容に関する問合わせ先と担当者名を記入して下さい。
- ・営業：申請する新技術の営業に関する問合わせ先と担当者名を記入して下さい。（技術と同様の場合にも記入して下さい）
- ・その他：共同開発又は営業関連企業を記入して下さい。「項目追加」をクリックすると入力画面が表示され、最大40件の問合わせ先を入力することができます。

5. 「概要」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」
4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」	6.「概要写真」「概要表」
7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	

概要 NETISに掲載する概要です。全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①

①何について何をする技術なのか？

～～工法

誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②

②従来は、どのような技術で対応していたのか？

△△工法

誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③

③公共工事のどこに適用できるのか？

・〇〇における□□工事

誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④

④その他

(追記(等))

.....

誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④その他

- ①～③の補足的な内容を見出し(追記、詳細等)を付けた上で、簡条書きで簡潔に記入してください。特になし場合は「特になし」と記載してください。

①何について何をする技術なのか？

「～～工法」等というように、簡条書きで簡潔に表現してください。出来るだけ従来使用している表現で、一言で表現してください。

例) ○厚層基材吹きつけによる法面安定工法

PC床版の出来形を自動で管理するシステム 等

×軽量盛土と再生木材による擁壁工法で、工期短縮・環境負荷軽量・コスト削減に寄与することができる画期的なものである。

また、補足説明が必要な場合等については、④その他で見出しを作成していただき、そこに文字数の許す範囲で記述してください。

ここで記載される工法等は【9.技術概要(アブストラクト)】(P12)の「本技術は①で」の①にあたる部分となります。

◎新技術の概要が分かる資料、パンフレットについては【添付資料○】として添付してください。

②従来は、どのような技術で対応していたのか？

「△△工法」というように、簡条書きで簡潔に表現してください。ここで記述する従来技術(複数ある場合、もっとも標準的と思われるもの)は、下記で記載した箇所に記述する従来技術と同一となります。

・【9.技術概要(アブストラクト)】(P12)

「従来は②で対応していた。」の②にあたる部分。

・【14.従来技術との比較(上記のほか)】(P18～20)

「根拠資料の入力」[④従来技術との比較<結果>]で用いる技術

(従来技術とは、申請技術の比較対象となる技術で、評価する際の比較基準となります。なお、従来技術は過去に自社で開発されたもの、自他社においてNETISに登録されている技術は不可とし、工法・機械等については、「国土交通省土木工事標準積算基準」等に記載されている工法から選定してください。材料等については、一般的に使用されているものから選定してください。)

◎従来技術の基準となる根拠については【添付資料○】として添付し、該当箇所を赤囲みしてください。

③公共工事のどこに適用できるのか？

「・」で整理し、河川や道路等、どの事業で適用する工事なのかが明確になるように、簡潔に記述してください。複数ある場合は、例のように併記してください。

例) ・災害復旧事業における土留工事や仮設工事

・冬季の凍結防止が必要な道路維持工事

・既設RC床版の更新工

6. 「概要写真」「概要表」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」 2.「分類・区分」 3.「キーワード」「開発目標」
4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」 5.「概要」 6.「概要写真」「概要表」 7.「新規性及び期待される効果」

[illegible]

①概要写真・概要写真タイトル

- ・NETIS 検索時、検索結果一覧で最初に表示される写真となるため、**申請技術全体が分かるような写真又は図面にしてください。**
- ・選択ボタンを押すと「ファイルを開く」という画面が出て画像ファイルを指定できます。
- ・写真タイトルを必ず記入して下さい(全角 25 文字以内)。
- ・写真(図)等のファイル形式は、JPEG あるいは GIF 形式を使用して下さい。
- ・画像ファイルの大きさは 2MB 以内にして下さい。
- ・画像の横は最大 600pixel 以内、縦は 1000 pixel 以内にして下さい(縦 A4 サイズで出力できる)。
- ・図面を利用する場合は、プリントアウトした時に文字や数字等がはっきり分かるものを使用して下さい。
- ・掲載したい写真や図面の解像度が高く、2MB を超える場合には、【26.「その他(写真)」「その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術指針等)】(P34)の「その他ダウンロード資料」に、PDF ファイルとしてアップロードするのも一つの考え方です。

②概要表・概要表タイトル

- ・概要表は新技術の諸元を比較したり、シリーズラインナップを羅列したり、様々なアイデアで使用できます。
- ・見出し行数、見出し列数を選択することにより、指定された行数、列数が色付けされ、見出しを作成することができます。
- ・20 列×20 行まで作成可能です（行や列の挿入は出来ません）。

7. 「新規性及び期待される効果」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」
4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」	6.「概要写真」「概要表」
7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	

新規性及び期待される効果 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

① ①どこに新規性があるのか？（従来技術と比較して何を改善したのか？）

例 ・AをBに変えた。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

② ②期待される効果は？（新技術活用のメリットは？）

例 ・Bに変えたことにより..

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③ ③その他

(開発経緯 (等))

.....

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

①どこに新規性があるのか？（従来技術と比較して何を改善したのか）

例のように、AをBに変えた。CがDになった。Eを追加した。Fを取り除いた等、物理的・理論的変更要因を簡条書きで簡潔に記述してください。

例)

- ・盛土材を×× (A) から〇〇 (B) に変えた。
- ・コンクリート製のプレキャスト板 (C) が、廃材を利用した再生木材からなる板 (D) になった。
- ・改良機の先端にリブを取り付けた。(E)

②期待される効果は？（新技術活用のメリットは？）

例のように、①の「・」に対して②の「・」を対応させてください。

例えば①ではAをBにしています。Bにしたことにより何かが起こっています。それがメリットとなり、②でBに変えたことにより□□が向上した等の効果（以下、**具体的なメリット**）が、簡条書きで簡潔に記述できるようになります。

ここで具体的なメリットは、新技術と従来技術を比較する「【13.及び14.従来技術との比較（6項目）】比較のポイント」(P17～20)でも当然向上項目となります。期待される効果と比較のポイントを整合するとともに、根拠資料（詳細説明資料、旧様式 3）で実証・確認された結果としてください。

また、具体的なメリットは【9.技術概要（アブストラクト）】(P12)の「本技術の活用により○が期待できる。」の○にあたる部分となります。

例)

- ・再生木材からなる板 (D) を使用することにより、**環境負荷を軽減でき、かつコスト削減が図られる（具体的なメリット）。**
- ・リブを取り付けた (E) 事により、**直進性が向上し、品質向上に繋がった（具体的なメリット）。**

③その他

①、②の補足的な内容（開発・コンセプトに至った経緯やメリットの詳細、説明の必要がある着眼点 等）について、見出しを付けた上で記入してください。特にない場合は「特になし」と記載してください。

8. 「效果写真」「效果表」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」 2.「分類・区分」 3.「キーワード」「開発目標」 4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」

5.「概要」 6.「概要写真」「概要表」 7.「新規性及び期待される効果」 8.「効果写真」「効果表」 9.「技術概要（アブストラクト）」 10.「適用条件」

[illegible]

①効果写真・効果写真タイトル

- ・【7.新規性及び期待される効果】(P10)で記載した内容が分かりやすい写真又は図面を添付してください。
- 例) ・ 物理的・理論的変更要因がわかる写真
- ・ 具体的なメリットの根拠となるグラフ
- ・ 「ファイルの選択」(①-1)を押すと「ファイルを開く」という画面が出て画像ファイルを指定できます。
 - ・ 写真タイトルを必ず記入して下さい(全角 25 文字以内)。
 - ・ 写真(図)等のファイル形式は、JPEG あるいは GIF 形式を使用して下さい。
 - ・ 画像ファイルの大きさは 2M 以内にして下さい。
 - ・ 画像の横は最大 600pixel 以内、縦は 1000 pixel 以内にして下さい(縦 A4 サイズで出力できる)。
 - ・ 図面を利用する場合は、プリントアウトした時に文字や数字等がはっきり分かるものを使用して下さい。

②効果表・効果表タイトル

- ・新技術と従来技術の特徴や実験結果の比較等、
【7.新規性及び期待される効果】で記載した内容が分かりやすい表を作成してください。
- ・見出し行数、見出し列数を選択することにより、指定された行数、列数が色付けされ、見出しを作成することができます。
- ・20 列×20 行まで作成可能です（行や列の挿入は出来ません）。

9. 「技術概要（アブストラクト）」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」
4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」	6. 「概要写真」「概要表」
7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	
9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」	11. 「適用範囲」
11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	

①

技術概要 検索結果に表示する技術の概要です。全角127文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

本技術は〇〇工法で、従来は△△工法で対応していた。本技術の活用によりコスト削減が図られ、□□の向上が期待できる。

誤字チェック 凡例： チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

技術概要（アブストラクト）

全角127文字以内で記入して下さい。

技術概要は、申請技術の特徴が明確にわかるように『概要』、『新規性及び期待される効果』で記述した内容を簡潔にまとめて下さい。

例) 本技術は、土留め・河川護岸・止水壁工事に用いる鋼矢板であり、従来は、H型鋼矢板で対応していた。本技術の活用により、材料費・施工費の削減や工期の短縮を期待できる。

①技術概要（アブストラクト）

アブストラクトとは、NETIS で技術を検索した場合、新技術名称ではその技術の概要が把握できない場合があります。そのような時に、簡単な技術概要を新技術名称の下に表示させるために、記述していただいています。

- ・全角 127 文字以内にて作成します。
- ・定型が決まっていますので、次のように“ここまで書かれている内容”を①②③に当てはめて、作成ください。

「本技術は①で、従来は②で対応していた。本技術の活用により③が期待できる。」

①：「【5. 概要】①何について何をする技術なのか？」(P8)に記述した内容を転記します。(文字数が多くなった場合は、ある程度要約してください。)

②：「【5. 概要】②従来はどのような技術で対応していたのか？」(P8)に記述した内容を転記します。(文字数が多くなった場合は、ある程度要約してください。)

③：「【7. 新規性及び期待される効果】②期待される効果は？（新技術活用のメリットは？）」(P10)に記述した内容のうち、効果の部分を要約して作成してください。

10. 「適用条件」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」
4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」	6. 「概要写真」「概要表」
7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	
9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」	11. 「適用範囲」
11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」

適用条件 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①

①自然条件

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②

②現場条件

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③

③技術提供可能地域

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④

④関連法令等

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

- ・「適用条件」には、申請する新技術の施工、使用上の制約について箇条書きで記入してください。
- ・記載事項がない場合には、「特になし」と記入して下さい。

①自然条件

- ・制約となる自然条件（気温、湿度、天候、降水量、降雪量、地形、地質等）を入力してください。
- 例） - 気温〇℃以上～〇℃未満（機器の動作保証範囲）
 - 風速 5m 以下（ドローンを使用するとき）
 - 泥炭地は使用不可（地質的に使用できない場合）
- ・「【14.従来技術との比較】[施工性]根拠資料の入力ー自然条件」（P19）と整合させてください。

②現場条件

- ・工事の通常活動では対応できない制約条件（工事現場の広さ・通信環境等）を入力してください。
- 例）作業スペース〇m×〇m、4G 以上のインターネット接続が可能等
- ・施工機械等で複数の機種がある場合は、適用条件を個々に記載して下さい。
 - ・「【14.従来技術との比較】[施工性]根拠資料の入力ー現場条件」（P19）と整合させてください。

③技術提供可能地域

- ・新技術を適用できる地域について、具体的な都道府県名等と簡単な理由を記述して下さい。
- 例）プラント設置地区限定（〇〇県、□□県、H〇年〇月現在）
 例）九州地区限定（現段階で運搬可能な地域）
- ・制約がない場合は、「技術提供地域については制限無し」として下さい。

④関係法令等

- ・法令上遵守しなければならない条件
- ・発行年・発行元も記述してください。
- ・労働安全衛生法等は特に記述しなくても構いません。
- ・基準書等は記述する必要はありません。

11. 「適用範囲」

1.「技術名称」・「副題」・「技術開発年」・「記入年月日」・「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」・「開発目標」
4.「開発体制」・「開発会社」・「問合せ先」	5.「概要」	6.「概要写真」・「概要表」
7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」・「効果表」	
9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」	11.「適用範囲」
	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」

適用範囲 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①

①適用可能な範囲

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②

②特に効果の高い適用範囲

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③

③適用できない範囲

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

- ・「適用範囲」には、技術として成立するために最低限必要な基準や管理値、規格値及びその引用元を箇条書きで記入してください。

①適用可能な範囲

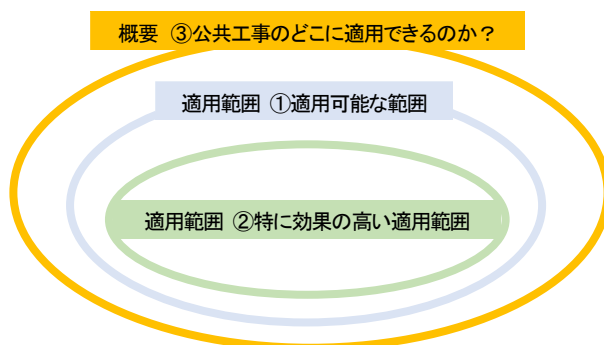
- ・施工量、規模、勾配、高さ、地盤条件等を記載して下さい。
例) - コンクリートの養生面積が 150 m²以下
- 縦断勾配が 12%未満の道路
- N 値 10 以上の砂質土
- ・【5.概要】③公共工事のどこに適用できるのか (P8)で示した範囲内としてください。
- ・【14.従来技術との比較】【施工性】根拠資料の入力ー適用範囲 (P19)と整合させてください。

②特に効果の高い適用範囲

- ・①の中で特に効果の高い条件を具体的に記述してください。
- ・【15.技術のアピールポイント】(従来技術が抱えていた課題があった等に対し、新技術がどのような有効性持っているか、P.21) と整合するように記入して下さい。

③適用できない範囲

- ・適用できない理由が分かるように記入して下さい。
- ・通常は「①適用可能な範囲」の否定形になります。
例) - コンクリートの養生面積が 150 m²を超える
- 縦断勾配が 12%以上の道路
- N 値 10 未満の砂質土及び砂質土以外の地盤



適用範囲のイメージ

11-2. 「適用される基準」

1.「技術名称」・「副題」・「技術開発年」・「記入年月日」・「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」・「開発目標」
4.「開発体制」・「開発会社」・「問合せ先」	5.「概要」	6.「概要写真」・「概要表」
7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」・「効果表」	
9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」	11.「適用範囲」
11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	

適用される基準

①

①設計基準

☐ なし

※協会等の基準を適用
「協会等の基準を適用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

☐ 独自基準あり
「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。
※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルをアップロードしてください。

②

②積算基準

☐ なし

※協会等の歩掛情報を適用
「協会等の歩掛情報を適用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

※独自基準あり
「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。
※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルをアップロードしてください。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または
ファイルの選択 ファイル………

※ファイルサイズは20MBまでのものとしてください。

③

③施工管理基準

☐ なし

※協会等の基準を適用
「協会等の基準を適用」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。

※独自基準あり
「独自基準あり」を選択した場合は、その基準名および該当箇所を記載してください。
※「独自基準あり」を選択した場合は、その基準資料ファイルをアップロードしてください。

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または
ファイルの選択 ファイル………

※ファイルサイズは20MBまでのものとしてください。

①設計基準

- 設計基準がない場合は「なし」を選択してください。
- 国立研究開発法人のハンドブック、日本道路協会の指針、土木学会の示方書等、協会等の基準を適用した場合は「協会等の基準を適用」を選択し、入力欄に「基準名（発行年、発行元も記載）、該当箇所（ページ数等）」を記述してください。
例)『道路土工構造物技術基準・同解説』日本道路協会 2017, p.59
- 独自の設計基準がある場合は「独自基準あり」を選択し、入力欄に「基準名、該当箇所」を記述するとともに、設計基準の pdf をアップロードしてください。

②積算基準

- 積算基準がない場合は「なし」を選択してください。
- 協会等の歩掛情報を適用した場合は「協会等の歩掛を適用」を選択し、入力欄に「基準名、該当箇所」を記述してください。
- 独自の歩掛がある場合は「独自基準あり」を選択し、入力欄に「基準名、該当箇所」を記述するとともに、歩掛の pdf をアップロードしてください。

③施工管理基準

- 施工管理基準がない場合は「なし」を選択してください。
- 協会等の基準を適用した場合は「協会等の基準を適用」を選択し、入力欄に「基準名、該当箇所」を記述してください。
- 独自の施工管理基準がある場合は「独自基準あり」を選択し、入力欄に「基準名、該当箇所」を記述するとともに、施工管理基準の pdf をアップロードしてください。

12. 「留意事項」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」
4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」	6.「概要写真」「概要表」
7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	
9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」	11.「適用範囲」
11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	

留意事項 全角1000文字以内、半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

① ①設計時

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

② ②施工時

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③ ③維持管理時

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④ ④その他

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

- ・全角 1000 文字以内で記入してください。
- ・設計、施工、維持管理、その他において留意する点、つまり注意点を記述してください。
- ・開発者や申請者から見れば当たり前に思う内容でも、閲覧者は興味をもっているため、感心する内容となる場合があります。
- ・リスクを最大限考慮し、実績による経験上、同じ現象が起こってしまうその原因となる処置を予めさせないようにする「回避策」、起こってしまった場合の対処法である「対応策」の記載をお願いします。
- ・ネガティブな内容をオープンにして、閲覧者に安心感を与えることが、新技術の信頼性向上につながります。
- ・記載事項がない場合には、「特になし」と記入して下さい。

①設計時

- ・設計条件として必要な事項や注意すべき事項を記入してください。

例) ・周辺環境・施工範囲等について確認し、区割り・薬剤量・散布機械設置場所・搬入経路等を十分検討すること。

②施工時

- ・施工条件として必要な事項や注意すべき事項を記入してください。

例) ・希釈用水は、原則、水道水・工業用水を使用する。
・やむを得ず廃棄する場合は、産業廃棄物として適正に処分する。

③維持管理時

- ・維持管理時に必要となる事項や注意すべき事項について記入してください。

例) ・想定外の集中豪雨により、保護層の表層が壊され、再散布が必要となる場合は、あと散布方式による再散布を行うことも可能である。

④その他

- ・特許権等知的財産権、特許使用料の有無や知的財産となる内容については必ず記載して下さい。
- ・現時点では確認が不十分な事項、その他留意事項を記入して下さい。
- ・納入に期間が必要な場合は、任意の数量に対する時期の目安を記入してください。

13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」		2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」	6.「概要写真」「概要表」	
7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」	11.「適用範囲」	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	13.「従来技術との比較（経済性・工程）」

The screenshot shows a web form for comparing conventional and new technologies. It includes sections for 'Economic Effect' and 'Engineering Effect', each with radio buttons for 'Improvement', 'Same Level', and 'Decline', and a field for 'Change Value (%)'. There are also 'Comparison Points' text areas. Below these are tables for 'New Technology Details' and 'Conventional Technology Details', each with columns for Item, Specification, Quantity, Unit, Unit Price, Amount, Summary, and Remarks/Remarks. At the bottom, there are input fields for 'New Technology' and 'Conventional Technology' dates, and a detailed input form for 'Item', 'Specification', 'Quantity', 'Unit', 'Unit Price', 'Amount', 'Summary', and 'Remarks' with 'Add' and 'Cancel' buttons.

①従来技術名

- ・【5.概要】②従来は、どのような技術で・・・(P8)で記入した従来技術名（リンクしていて自動表記されます。）。なお、改変はできますが、原則改変しないようにしてください。

②活用の効果（経済性・工程）及び変化値（%）

- ・この位置をクリックすると「④活用の効果の根拠」画面が現れ、値は入力した内容で自動表記されます。

③比較のポイント

- ・各項目で「向上・同程度・低下」とする根拠を簡潔に記載します（全角 30 文字以内）。
- ・【7.新規性及び期待される効果】②期待される効果は？(P10)、【9.技術概要（アブストラクト）】(P12)の内容と整合させます。
- ・何が向上（低下）したのか、等の「何」に当たる部分を具体的に記述してください。

例）経済性が向上した場合 → システム設置費は増加するが、労務費が減少するため向上
・経済性、工程は、同程度であっても記載します。

④活用の効果の根拠

- ・活用の効果（経済性・工程）の判断根拠となる数値を入力します。数値が自動計算され、②に反映されます。

⑤基準とする数量・単位

- ・極力 1、10、100 を基準数量としてください。具体的数量当りで記述します（「1 式」当りは不可です）。
- ・記述した数量は【16.施工単価】(P23)の「施工条件」に「施工数量」として転記してください。

⑥新技術の内訳追加・従来技術の内訳追加

- ・クリックすると「⑦内訳（1 行）」画面が現れます。

⑦内訳（1 行）

- ・「項目」、「仕様」、「数量（半角）」、「単位」、「単価（半角）」、「摘要」を入力してください。「金額」は自動計算されます。
- ・施工単価を算出する内訳のため、イニシャルコストを入力して下さい。トータルコストが向上する場合は、比較のポイントに記述するとともに、詳細は【16.施工単価】の積算条件に記述して下さい。
- ・材料費やシステム賃料のみの内訳は不可です。施工費も含めた内訳としてください。
- ・「項目」から「金額」までの項目は、計算書等、積算資料等の内容を転記してください。
- ・「摘要」には単価及び歩掛の引用もと等の積算条件を記入してください。

- ・計算書、単価及び歩掛等、経済性の根拠となる積算資料等を「積算条件の【添付資料○】」(P24)にとりまとめてください。また、該当箇所を赤囲みしてください。

⑧工程

- ・積算資料等から新技術・従来技術の「日数」を転記してください。
- ・0 日となっていないことを確認して下さい（新技術・従来技術の工程が同じでも 0 日は不可です）。
- ・工程表等、工程の根拠となる資料を「積算条件の【添付資料○】」にとりまとめてください。また、根拠となる箇所を赤囲みしてください。

◎ここに記載した内容の根拠は、積算条件の【添付資料○】(P24)に必ず添付してください。

14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」

1.「技術名称」「課題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「開発先」	5.「概要」
6.「経費写真」「概要表」	7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」
11.「適用範囲」	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	13.「従来技術との比較（経済性・工程）」	14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」				

①

品質

○向上 ○同程度 ○低下

②

比較のポイント

③

根拠資料の入力

安全性

○向上 ○同程度 ●低下

比較のポイント

根拠資料の入力

施工性

○向上 ○同程度 ○低下

比較のポイント

根拠資料の入力

周辺環境への影響

○向上 ○同程度 ○低下

比較のポイント

根拠資料の入力

④

自由項目

(全角20文字)

○向上 ○同程度 ○低下

比較のポイント

根拠資料の入力

自由項目

(全角20文字)

○向上 ○同程度 ○低下

比較のポイント

根拠資料の入力

①活用の効果

（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）

- ・「向上・同程度・低下」から選びます（経済性・工程のように自動入力にはなっていません）。
- ・「向上」した項目と【3.「キーワード」「開発目標」】で入力した内容が、整合するようにしてください。（P6 参照）

②比較のポイント

- ・各項目で「向上・同程度・低下」とする根拠を簡潔に記載します（全角 30 文字以内）。
- ・【7.新規性及び期待される効果】②期待される効果は？（P10）、【9.技術概要（アブストラクト）】（P12）の内容と整合させます。
- ・何が向上（低下）したのか、等の「何」に当たる部分を具体的に記述してください。
例）安全性が向上した場合 → 落下事故が減少。
- ・同程度の場合は特に記述しなくてもかまいません。
（同程度とする根拠が単純ではなく、複数の比較を合わせた判断の場合、説明を記入してください。）

⑤根拠資料の入力

- ・「根拠資料」（詳細説明資料、旧様式 3）は、技術の成立性を確認するための資料で、評価項目（大項目）の中身を中項目（指定）、小項目（任意）で詳細説明するものです。①～④までの記入欄に対して、新技術に対する確認値等と従来技術との比較を記載して下さい。

◎記入の仕方は次ページで説明します。

③根拠資料の入力

- ・クリックすると「⑤根拠資料の入力」画面が現れるので、各項目の詳細説明を入力してください。

④自由項目

- ・活用現場での評価にも影響が出るため、この欄はできるだけ使用しないで、既項目内で効果が記載されるようにしてください。

⑤

大	中	小	新規技術との比較（結果）	従来技術との比較（結果）	申請者記入欄
品質	耐久性能（物性）	小項目を入力	新規技術が満たすべき基準値を入力	従来技術が満たしている値を入力	従来技術との比較結果を入力
	耐久性能（形状）	小項目を入力	新規技術が満たすべき基準値を入力	従来技術が満たしている値を入力	従来技術との比較結果を入力
	耐久性能（能力）	小項目を入力	新規技術が満たすべき基準値を入力	従来技術が満たしている値を入力	従来技術との比較結果を入力

大	中	小	新規技術との比較（結果）	従来技術との比較（結果）	申請者記入欄
品質	耐久性能（物性）	小項目を入力	新規技術が満たすべき基準値を入力	従来技術が満たしている値を入力	従来技術との比較結果を入力
	耐久性能（形状）	小項目を入力	新規技術が満たすべき基準値を入力	従来技術が満たしている値を入力	従来技術との比較結果を入力
	耐久性能（能力）	小項目を入力	新規技術が満たすべき基準値を入力	従来技術が満たしている値を入力	従来技術との比較結果を入力

◎根拠資料の入力

		申請書記入欄				
	評価項目	① 新規基準値等	② 従来技術との比較（結果）	③申請技術について調査により確認した数値等	④従来技術との比較（結果）	⑤申請技術の数値等は条件数値等が得られた条件を入力
品質	耐久性（物性）	小項目を入力 新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術との比較結果を入力	数値等が得られた条件を入力
	耐久性（形状）	小項目を入力 新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術との比較結果を入力	数値等が得られた条件を入力
	耐久性（能力）	小項目を入力 新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術との比較結果を入力	数値等が得られた条件を入力

①小項目

- ・活用効果調査表の記述内容（【7.新規性及び期待される効果】等）を考慮し、項目立てをしてください。
- ・NETIS は類似技術の詳細説明資料も閲覧可能です。登録済みの類似技術の「小項目立て」や「記載方法」を参考にすると、根拠資料の作成が容易になる可能性があります。

品質	品物又はサービスが使用目的を満たしているかどうかを決定するための評価の対象となる固有の性質及び性能の全体・当該技術の正確さ、寸法、形等の出来上がり
耐久性	技術によって得られる成果が継続的かつ長期的に保持できる性能
〃（物性）	物理的特性値、化学的特性値を保持できる期間
〃（形状）	目的物の形状を保持できる期間
〃（能力）	能力を示す特性値を保持できる期間
材料	技術で用いる材料が具備する強度、密度、質量等の特性値
施工	技術を適用するプロセスにおいて必要な管理基準や規格値等
完成物	技術によって得られる成果の正確さ、外からみた場合の寸法、形、大きさ、見栄え等
安全性	技術によって得られる成果（もの、システム、サービス）及び適用するプロセスの安全性（労働安全や運搬機材の安全性等、労働安全衛生法上の安全性は含まない）
構造	技術によって得られる成果の構造やシステムの安全性やその成果を利用する場合の安全性（例えば、交通安全や防災等に関するものも含む）。
施工段階	施工中の現場内及び周辺での安全性やその管理のしやすさ
施工性	施工における適用条件、難易度等
現場条件	当該技術が適用可能な現場条件（自然条件以外）【10.適用条件】②現場条件と整合
適用範囲	当該技術が適用可能な適用範囲（制約条件）【11.適用範囲】①適用可能な範囲と整合
自然条件	当該技術が適用可能な自然条件（地形、地質、気象等）【10.適用条件】①自然条件と整合
施工管理	当該技術の施工における管理項目や管理頻度等
難易度	当該技術の施工にあたっての難しさの程度（熟練工が必要、資格が必要 等）
環境	社会環境、自然環境、作業員環境等の点からどのような影響が考えられるか、緩和できるのか、基準があれば基準に照らした記載。
社会環境	技術によって得られる成果が、社会や自然環境に与える影響（CO2、NOx、騒音、振動、森林破壊等）
作業員環境	技術によって得られる成果が、作業員環境に与える影響（粉じん、振動等）

②行の追加（小項目以下）

- ・小項目を追加したい場合に使用します。追加したい場所の[中項目名]をプルダウンで表記してから押します。

③

評価項目		申請者記入欄					
大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較（結果）	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較（結果）	⑤申請技術の数値採取条件
品質	耐久性（物性）	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術との比較結果を入力	数値等が得られた条件を入力
	耐久性（形状）	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術との比較結果を入力	数値等が得られた条件を入力
	耐久性（能力）	小項目を入力	新技術が満足すべき基準値等を入力	基準値等を満たしているか入力	確認結果を入力	従来技術との比較結果を入力	数値等が得られた条件を入力

評価項目		申請者記入欄					
大	中	小	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号（根拠データ等）	⑧基準値等の引用もと	備考
品質	耐久性（物性）	小項目を入力	数値等が得られた条件を入力	実証方法と確認した機関の両方を入力	根拠が記載された添付資料名・番号を入力	現行基準値等の引用元を入力	補足する内容を入力
	耐久性（形状）	小項目を入力	数値等が得られた条件を入力	実証方法と確認した機関の両方を入力	根拠が記載された添付資料名・番号を入力	現行基準値等の引用元を入力	補足する内容を入力
	耐久性（能力）	小項目を入力	数値等が得られた条件を入力	実証方法と確認した機関の両方を入力	根拠が記載された添付資料名・番号を入力	現行基準値等の引用元を入力	補足する内容を入力

③詳細説明記入①～⑧

①現行基準値等	新技術が準用すべき基準を出来るだけ詳細に記述して下さい。自社基準も同様です。基準内容が数値等の場合は、その数値等を具体的に記述して下さい。 ※基準のある箇所のみ記載願います。①を記入した場合は②～⑧は必須です。無い場合は②と⑧は「－」です。
②現行基準との比較 ＜結果＞	①と③を比較し、その結果を客観的に「適合」あるいは「不適合」と記述して下さい。記載の出来ない箇所は「－」をセンタリングで記述願います。
③申請技術について 実証により確認した数値等	実証実験や試験施工、計算等で確認した数値等を記入してください。定量的な記述がよいですが、基準内容によっては文章による表現の場合もあります。 ※③を記入した場合は④～⑦は必須です。無い場合は全ての箇所が「－」です。記載の出来ない箇所は「－」をセンタリングで記述願います。
④従来技術との比較 ＜結果＞	想定している従来技術の数値等と比較した結果を「向上・同等・低下」とし、その理由とともに記述してください。（例：従来も〇〇が〇〇だから同等、従来より〇〇が〇〇なので向上、従来は〇〇であり〇〇%向上）
⑤申請技術の数値 採取条件	③の数値等がいかなる条件下、どのような規模のもとで採取されたものかを記述してください。（例：〇〇試験、〇件の施工実績、試験施工、メーカー仕様） ※条件とは：実際に何十メートルもの施工を行った上で、ランダムに採取した数値なのか、試験的に小さなものを作って採取したものなのか、計算値のみなのか等
⑥実証方法・機関	データを採取した試験の名称やその内容、またそれはどこで行った試験なのかが分かるように具体的な機関名や工事名等を記述してください。 （例：〇〇試験、（財）〇〇試験センター、社内検証、〇〇において自社で確認）
⑦添付資料名・番号 （根拠データ等）	項目に書かれた内容を確認する資料に各々資料番号を付して頂き、資料名・該当ページを記載願います。資料は、【添付資料〇】として必ず登録してください（【24. 添付資料】（P33）参照）。【添付資料〇】には根拠となる箇所を赤囲みしてください。 （例：【添付資料〇】 土木工事安全施工技術指針（令和2年3月）国土交通省 p1～23） （例：【添付資料〇】 材料強度試験 p1） ※開示できないものに関しては【参考資料】としてください。
⑧基準値等の引用もと	①がどの書物・文献から引用したものなのかが分かるように、書物名、発行年度、引用した章やページを記載願います。標準的な基準がない場合は、協会及び自社で設定された基準（「自社基準」「自社規格」）等も可です。その際は必ず、⑦も記載してください。 ※①を記入した場合は⑧は必須です。無い場合は⑧は「－」です。 （例：『土木工事安全施工技術指針』（令和2年3月）国土交通省 第1章総則 P1～4、第2章安全措置一般 P5～23）

15. 「その他技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」
4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」	6. 「概要写真」「概要表」
7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	
9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」	11. 「適用範囲」
11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」
14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」	15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工単価」

① その他、技術のアピールポイント等（全角127文字）

誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②-1 新技術のコストタイプ

入力する▼

①その他、技術のアピールポイント等

- ・全角 127 文字以内で入力してください。
- ・従来技術が抱えていた課題があった等に対し、新技術がどのような有効性持っているかを箇条書きで簡潔に記述して下さい。また、「【11.適用範囲】②特に効果の高い適用範囲」(P14)と対応するような記述をしてください。

②新技術のコストタイプ

- ・「入力する▼」(②-1)をクリックすると、次ページのようなコストタイプの一覧(②-2)が表示されます。
- ・新技術のコストタイプ別表示(コスト別グラフ)については、必須入力です。(不明な場合は窓口へ連絡)

1) 損益分岐点型：A（残土処理技術等）

- ①A（Ⅰ）型：従来技術と比べて、導入時にコストがかかるが、施工量が増えれば単価が安くなるパターン
- ②A（Ⅱ）型：従来技術と比べて、導入時にコストはかからないが、施工量が増えれば単価が高くなるパターン

※コストタイプ A 型を選択した場合は【16.施工単価】(P23)に損益分岐点を記入してください。

2) 平行型：B（施工機械の違いによる技術等）

- ①B（＋）型：従来技術と比べて、導入時から単価差（新技術の方が安い）があり、施工量に関わらず、その差に変化がないパターン
- ②B（－）型：従来技術と比べて、導入時から単価差（新技術の方が高い）があり、施工量に関わらず、その差に変化がないパターン

3) 発散型：C（材料や製品を含む技術等）

- ①C（＋）型：導入時の単価差の有無に関わらず、施工量に比例して単価差が増すパターン（新技術の方が安い）
- ②C（－）型：導入時の単価差の有無に関わらず、施工量に比例して単価差が増すパターン（新技術の方が高い）

4) ライフサイクル型：D（維持管理が関係する技術等）

- ・はじめに 1, 3, 5 及び 10 年のサイクルコストを入力してください。

- ①D（Ⅰ）型：従来技術と比べて、コストが下がるパターン
- ②D（Ⅱ）型：従来技術と比べて、コストが上がるパターン

※コストタイプ D 型を選択した場合は【16.施工単価】に、ランニングコストの施工条件、積算条件を入力するとともに、トータルコストが逆転する時期を入力してください。

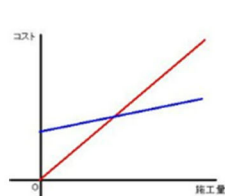
◎コストタイプ一覧

②-2

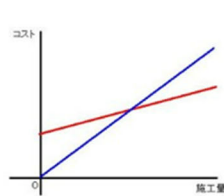
新技術 — 従来技術

損益分岐点型：A

プラント設置などの初期投資に費用がかかるが、施工量を増やせば、単位あたりの単価が安くなるパターン
※残土処理技術など



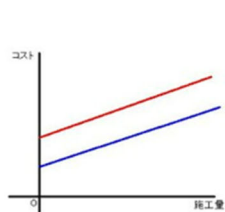
○A(I)型



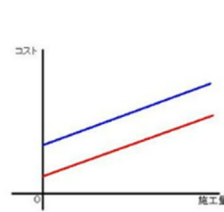
○A(II)型

並行型：B

導入の時点から単価差があり、施工量に関わらず、その差に变化がないパターン
※施工機械の違いによる技術など



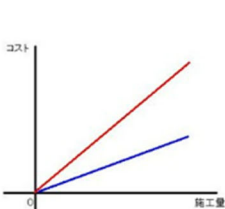
○B(+)型



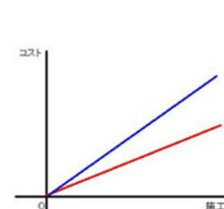
○B(-)型

発散型：C

導入時の単価差の有無に関わらず、施工量に比例して単価差が増すパターン
※材料や製品を含む技術など



○C(+)型



○C(-)型

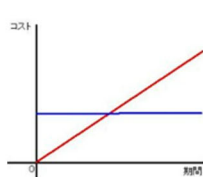
サイクルコスト型：D

基本的にはAタイプと同様であるが、初期コストと経年との関係でサイクルコストとしての特性を表すパターン
※維持管理が関係する技術など

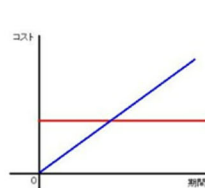
※サイクルコスト型を選択する場合は以下の表を入力してください。

サイクルコスト（円／単位あたり）

新技術	1年	3年	5年	10年
	0	0	0	0
従来技術	1年	3年	5年	10年
	0	0	0	0



○D(I)型



○D(II)型

16. 「施工単価」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」
6.「概要写真」「概要表」	7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」
11.「適用範囲」	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	13.「従来技術との比較（経済性・工程）」	14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16.「施工単価」	17.「費用内訳表」「歩掛」	18.「施工方法」	19.「今後の課題とそれに対する計画」
20.「施工実績」				

①-1

施工単価 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

試字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

試字・読字チェックの結果をここに表示します

施工単価
文章

申請する新技術の単価及び歩掛等のいづれかが分かるように記入して下さい。
施工条件等により価格が変わる場合には、一般的な施工条件で、標準的な規模で施工した場合の施工条件および単価等を記入して下さい。

算出条件に、経済性に反映されている内容として機材材込みなどが、製品価格のみなどが、間接費込みなどが条件を記載して下さい。
貴社において歩掛がある場合は、歩掛が分かる資料を添付して下さい。
経済性の算出根拠資料を添付して下さい。

適用条件（適用年次、地域等による単価の変動があるもの）を記入して下さい。
経済性でコスト削減効果がある場合は、その効果が現れる適用範囲を記入して下さい。
注）従来技術に対しての比率（削減率等）での記入は不可とします。また、物価資料、見積による等の表現も不可とします。必ず金額を示して下さい。

①-2

<記載例>

●施工条件

【共通】

- ・施工数量：（例 10m）
（【13.従来技術との比較（経済性・工程）】（P15）⑤基準とする数量・単位）と整合させてください。
- ・その他共通となる条件：
（例 地盤条件：N 値＝〇）

【新技術】

- ・新技術の条件（例 基礎形状：杭基礎）

【従来技術】

- ・従来技術の条件
（例 基礎形状：コンクリート基礎）

●積算条件

【共通】

- ・積算地区：北海道〇〇地区
- ・積算年月：令和 5 年〇月
- ・労務単価：『令和 05 年度 北海道開発局単価』を使用
- ・〇〇に関する費用は含んでいない

【新技術】

- ・材料費：令和 5 年〇月現在の自社単価を使用
- ・施工費：自社歩掛を使用

【従来技術】

- ・材料費：『〇〇〇〇〇』2023 年〇月号を使用
- ・施工費：『令和 5 年度 施工パッケージ型積算方式標準単価表』（国土交通省）を使用
- 【コスト削減効果】（A(I)型及び D(I)型のみ）
- ・損益分岐点：〇ヵ月目に〇円となり、従来技術の△円を下回る。

①施工単価

- ・単価算出に当たっての施工条件、積算条件等を簡条書きで①-1 に入力してください。
- ・全角 1000 字以内で記入してください。半角カタカナおよび連続するスペースは入力できません。
- ・①-2 の記載例のように、施工条件、積算条件の構成で入力してください。
- ・施工条件、積算条件については共通、新技術、従来技術の構成で記載してください。
- ・登録する技術の区分を「材料・製品等」とした際にも必ず施工費まで含めた条件を記載して下さい。

(1) 施工条件

1) 共通

- ・施工数量は「【13.従来技術との比較（経済性・工程）】（P15）⑤基準とする数量・単位」と整合させてください。
- ・その他、新技術と従来技術で共通となる条件を記入してください。

2) 新技術及び 3) 従来技術

- ・新技術と従来技術で異なる条件をそれぞれの欄に記入してください。

4) 添付資料

- ・左記の施工条件を【添付資料〇】として作成し、関連する図面及び資料等を添付してください。

(2) 積算条件

- ・新技術と従来技術で共通な歩掛と単価は【共通】に入力してください。
- ・積算地区、積算年月は必ず記入してください。（最低限都道府県単位、可能であれば北海道は地区又は市町村まで記入）
- ・新技術と従来技術で歩掛と単価の根拠が異なる場合は【新技術】【従来技術】にそれぞれ入力してください。
- ・左記の積算条件を【添付資料〇】として作成し、積算の根拠となる単価、歩掛及び工程表等を添付してください。
- ・【15.新技術のコストタイプ】（P21）で A(I)型の場合は損益分岐点の数量を、D(I)型の場合はトータルコストが逆転する時期を入力し、計算根拠を積算条件の【添付資料〇】に添付してください。

○施工条件・積算条件添付資料作成例

(1) 施工条件

1 ページ目に【16. 施工単価】で記載した「施工条件」を転記し、2 ページ目以降に関連する図面、資料等を添付してください。

添付資料○
「○○○○（技術名）」施工条件
【共通】
・施工数量：10m
（【13.】⑤基準とする数量・単位と整合）
・地盤条件：N 値＝○
・
【新技術】
・基礎形状：杭基礎
・
【従来技術】
・基礎形状：コンクリート基礎
・

図面

資料

(2) 積算条件

1 ページ目に【16. 施工単価】で記載した「積算条件」を転記し、2 ページ目以降に積算の根拠となる計算書、単価、歩掛、工程表等を添付して下さい。

コストタイプが A(I)型及び D(I)型の場合は損益分岐点及びトータルコストが逆転する時期の計算結果を添付してください。

添付資料○
「○○○○（技術名）」積算条件
【共通】
・積算地区：北海道○○地区
・積算年月：令和 5 年○月
・労務単価：『令和 05 年度 北海道開発局単価』を使用
【新技術】
・材料費：令和 5 年○月現在の自社単価を使用
・施工費：自社歩掛を使用
【従来技術】
・材料費：『○○○○』2023 年○月号を使用
・施工費：『令和 5 年度 施工パッケージ型積算方式標準単価表』（国土交通省）を使用
【コスト削減効果】（A(I)型及び D(I)型のみ）
・損益分岐点：新技術のランニングコストは○ヵ月目に○円となり、従来技術の△円を下回る。

計算書

単価

歩掛

工程表

◎施工条件及び積算条件の添付資料は【24. 添付資料】（P33）に必ず登録してください。

17. 「費用内訳表」「歩掛」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」
6.「概要写真」「概要表」	7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」
11.「留意事項」	12.「従来技術との比較（経済性・工程）」	13.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」	14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」	15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」
16.「施工単価」	17.「費用内訳表」「歩掛」	18.「施工方法」	19.「今後の課題と対応計画」	20.「施工実績」

① 費用内訳表
タイトル

② 費用内訳表

③

●なし ○標準歩掛 ○暫定歩掛 ○協会歩掛 ○自社歩掛

施工単価
表

前ページ文章を補足する一覧表が作成できます。（内容は、申請する新技術及び比較従来技術の単価及び損料等、施工単価の説明であれば任意とします。）
申請する技術と従来技術及び類似技術との経済性が比較できるように簡易な単位数量当りの施工費用の内訳を記載して下さい。
20列×20行まで可能（行や列の挿入は出来ません）。

歩掛表

該当するものを選択して下さい。

- * 標準歩掛とは、施工実態調査を基に、標準的な施工が行われた場合の労務、材料、機械等の規格や所要量を各々の工程毎に設定したもの
- * 暫定歩掛とは、公共工事の発注者の負担を軽減して新技術の採用促進を図るため、既に活用実績が多い新技術や活用ニーズの高い新技術について提供している歩掛

①費用内訳表タイトル

費用内訳表のタイトルを記入してください。

②費用内訳表

- ・前ページ文章を補足する一覧表が作成できます。（内容は、申請する新技術及び比較従来技術の単価及び損料等、施工単価の説明であれば任意とします。）
- ・申請する技術と従来技術及び類似技術との経済性が比較できるように簡易な単位数量当りの施工費用の内訳を記載して下さい。
- ・20列×20行まで可能（行や列の挿入は出来ません）。

③歩掛

- ・該当するものを選択して下さい。
 - * 標準歩掛とは、施工実態調査を基に、標準的な施工が行われた場合の労務、材料、機械等の規格や所要量を各々の工程毎に設定したもの
 - * 暫定歩掛とは、公共工事の発注者の負担を軽減して新技術の採用促進を図るため、既に活用実績が多い新技術や活用ニーズの高い新技術について提供している歩掛

19. 「今後の課題とその対応計画」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」
6.「概要写真」「概要表」	7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」
11.「適用範囲」	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	13.「従来技術との比較（経済性・工程）」	14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16.「施工準備」	17.「費用内訳表」「歩掛」	18.「施工方法」	19.「今後の課題とその対応計画」
20.「施工実績」				

今後の課題とその対応計画 全角1000文字以内、半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

①

①今後の課題

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

②

②対応計画

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

今後の課題とその対応計画 欄

申請する新技術について、今後取り組んでいく事項およびその方向性について、以下の点に対して箇条書きで記入して下さい。

- ①今後の課題
- ②対応計画

○今後の課題とその対応計画

- ・申請する新技術について、今後の課題及びその対応計画について記入して下さい。
- ・全角 1000 文字以内、半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。
- ・記載なしの場合は「・特になし」と記載して下さい。

①今後の課題

申請技術について残された課題について箇条書きで記載して下さい。

②対応計画

残された課題に対する対応計画を箇条書きで記載して下さい。

20. 「施工実績」

1. 「技術名称」「期間」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工単価」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題とその対応計画」
20. 「施工実績」				

施工実績 実績件数（国土交通省）

※旧建設省、旧運輸省含む

① 国土交通省 0 件

国土交通省における施工実績（20件まで）

※現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないでください。

②-1

実績追加

②-2

(1) 国土交通省

①施工実績

- ・国土交通省（旧建設省、運輸省、北海道開発庁）に関する施工実績件数を①に入力してください。
- ・実績件数が無い場合には、0件と記入して下さい。
- ・実績が20件を超える場合は、最新の実績（もしくは代表的な実績）から順に記入するようにして下さい。

②実績追加

- ・「実績追加」(②-1)をクリックすると、「施工実績」を入力する画面(②-2)が表示されます。
- ・「工事名」は受注した正式な工事名を入力してください。
- ・「事業種類」の定義は以下の通りです。
 - 技術活用パイロット
 - 新技術を試行し、積算資料及び施工資料の整備等に関する事項を調査するために行う事業
 - 特定技術活用パイロット
 - 技術活用パイロットのうち建設技術協議会において特定した技術を対象として統一的かつ重点的に行うもの
 - 試験フィールド
 - 新技術を試行し、現場における適用性等、活用の効果等を検証するために行う事業
 - リサイクルモデル事業
 - パイロット事業において、技術により発生抑制や再生利用を行う事業
 - 一般工事
 - 一般の直轄工事
 - 特定試験フィールド
 - 試験フィールドのうち建設技術協議会において特定された、事業執行上のニーズが特に高い技術を対象として、検証を行う事業
 - その他
 - 直轄以外の工事
- ・「地方整備局」はプルダウンより選択してください。
- ・「事務所」はプルダウンより選択してください。
- ・「CORINS 登録番号」はできる限り確認して記入して下さい。不明な場合は、分かり次第入力して下さい。また、業務実績の場合には、番号の後ろに（TECRIS）と記入して下さい。
- ・「施工期間」は、元請け工事の施工期間を記入して下さい。また、工種の施工期間ではなく全体工期（その工事自体の契約期間）を記入して下さい。

実績件数（国土交通省以外）
※旧建設省、旧運輸省除く

③

その他公共機関 0 件
民間 0 件

国土交通省以外における施工実績（20件まで）
※現在入力している新技術に関するものは入力しないでください。

④-1

実績追加

④-2

工事名

発注者（種別）

発注者（事務所名等）

施工開始

施工終了

CORINS登録番号

編集/削除

工事名

発注者（種別）

発注者（事務所名等）

CORINS登録番号

施工開始

施工終了

追加 閉じる

(2) 国土交通省以外

③施工実績

- ・その他公共機関、民間に関する施工実績件数をそれぞれ③に入力してください。
- ・実績件数が無い場合には、0件と記入して下さい。
- ・実績が20件を超える場合は、最新の実績（もしくは代表的な実績）から順に記入するようにして下さい。

④実績追加

- ・「実績追加」(④-1)をクリックすると、「施工実績」を入力する画面(④-2)が表示されます。
- ・「工事名」は受注した正式な工事名を入力してください。
- ・「発注者(種別)」をプルダウンから選択してください。
- ・「発注者(事務所名等)」には都道府県、市町村、民間等の発注者名を入力してください。
- ・NEXCO、公団、公社、鉄道会社、電力会社、ガス会社、NTT、第三セクターはその他公共機関とします。
例) 北海道札幌建設管理部、札幌市建設局土木部、NEXCO 東日本北海道支社、(株)〇〇〇〇
- ・「CORINS 登録番号」はできる限り確認して記入して下さい。不明な場合は、分かり次第入力して下さい。また、業務実績の場合には、番号の後ろに (TECRIS) と記入して下さい。
- ・「施工期間」は、元請け工事の施工期間を記入して下さい。また、工種の施工期間ではなく全体工期（その工事自体の契約期間）を記入して下さい。

(3) 添付資料の作成

- ・既存の施工実績及び納入実績一覧表があれば【添付資料〇】として添付してください。その際、申請書に記載した実績との関係がわかるよう赤囲みし、例のように番号を付してください。

例) 国土交通省 ; 1-1, 1-2,

国土交通省以外 : 2-1, 2-2, ...

- ・既存の施工実績及び納入実績一覧表がない場合は、施工実績の一覧表を【添付資料〇】として作成してください。

21. 「特許・実用新案」

1.「技術名称」「期間」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」	6.「概要写真」「概要表」	
7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」	11.「適用範囲」	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」
13.「従来技術との比較（経済性・工程）」	14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」	15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16.「施工準備」	17.「費用内訳表」「歩掛」	18.「施工方法」	19.「今後の課題とその対応計画」
20.「施工実績」	21.「特許・実用新案」	22.「第三者評価・表彰等」	23.「実験等実施状況」	24.「添付資料」		

特許・実用新案

入力する▼

①

特許・実用新案

特許情報1

特許番号

特許 ☒ 有り ☐ 出願中

特許-通常実施権 ☒ 有り ☐ 無し

特許-専用実施権 ☒ 有り ☐ 無し

特許権者

実施権者

特許料等

実施形態

問合せ先

特許情報2

特許番号

特許 ☒ 有り ☐ 出願中

特許-通常実施権 ☒ 有り ☐ 無し

特許-専用実施権 ☒ 有り ☐ 無し

特許権者

実施権者

特許料等

実施形態

問合せ先

特許情報3

特許番号

特許 ☒ 有り ☐ 出願中

特許-通常実施権 ☒ 有り ☐ 無し

特許-専用実施権 ☒ 有り ☐ 無し

特許権者

実施権者

特許料等

実施形態

問合せ先

特許情報4

特許番号

特許 ☒ 有り ☐ 出願中

特許-通常実施権 ☒ 有り ☐ 無し

特許-専用実施権 ☒ 有り ☐ 無し

特許権者

実施権者

特許料等

実施形態

問合せ先

特許情報5

特許番号

特許 ☒ 有り ☐ 出願中

特許-通常実施権 ☒ 有り ☐ 無し

特許-専用実施権 ☒ 有り ☐ 無し

特許権者

実施権者

特許料等

実施形態

問合せ先

②

実用新案 ☐ 有り ☐ 出願中 ☐ 出願予定 ☐ 無し

有りの場合：特許番号

実施新案-通常実施権 ☒ 有り ☐ 無し

実施新案-専用実施権 ☒ 有り ☐ 無し

③

備考 全角1000文字以内、半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

戻る▲

○特許・実用新案

- ・特許・実用新案の有無、出願状況について、現時点（申請書類の提出時）におけるものを選択して下さい。
- ・「入力する」のタブをクリックすると入力画面が表示されますので、情報を入力、選択します。
- ・意匠登録がある場合には備考欄に入力してください。
- ・特許権等知的財産権、特許使用料の有無や知的財産となる内容については「【12.留意事項】④その他」(P16)にも必ず記載して下さい。

①特許

- ・「特許」は特許番号を入力すると、その他の項目（特許～問合せ先）が入力、選択できるようになります。わかる範囲内で入力・選択していただくようお願いします。

【参考：実施権】

- ・実施権とは、特許されている発明を実施する権利であり、いわゆるライセンスのことです。契約に基づくものとしては専用実施権と通常実施権があります。
- ・専用実施権：ライセンスを受けたものが独占的に実施できる権利です。従って、複数人に専用実施権が設定されることはなく、また、設定した範囲であれば、特許権者といえどもその発明することはできません。
- ・通常実施権：独占的ではなく、単に実施するだけの権利です。特許権者は、同じ内容について複数人に通常実施権を設定することができます。

②実用新案

- ・「実用新案」は、実用新案「有り」を選択すると、その他の入力項目（有りの場合：特許番号、実施新案・通常実施権、実施新案・専用実施権）が入力、選択できるようになります。

③備考

- ・特許・実用新案について補足説明が必要な場合には、備考に入力してください。全体で 1000 文字まで入力できます。

◎特許証、実用新案証明書は【24. 添付資料】(P33)に必ず登録してください。

22. 「第三者評価・表彰等」

1. 「技術名称」 「期間」 「技術開発年」 「記入年月日」 「情報提供機関」	2. 「分野・区分」	3. 「キーワード」 「開発目的」	4. 「開発体制」 「開発会社」 「開発先」	5. 「概要」	6. 「概要写真」 「概要表」
7. 「新設性及び期待される効果」	8. 「効果写真」 「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」	11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」
12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」	15. 「その他、技術のアピールポイント等」 「新技術のコストタイプ」	16. 「施工手順」	
17. 「費用内訳表」 「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の展開とその対応計画」	20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」
23. 「実績等実施状況」	24. 「添付資料」				

入力する▼

①

建設技術審査証明

建設技術番号、評価年月日、評価機関いずれかを入力すると残りが必須となります。

建設技術番号	
評価年月日	
評価機関	▼
URL	

②

建設技術評価

建設技術評価番号、評価年月日いずれかを入力すると他方が必須となります。

建設技術評価番号	
評価年月日	
URL	

③

その他の制度等による証明1

制度の名称	
番号	
証明年月日	
証明機関名称	
証明範囲	
URL	

その他の制度等による証明2

制度の名称	
番号	
証明年月日	
証明機関名称	
証明範囲	
URL	

④

項目追加

項目	試験・調査内容	結果
試験済 試験・調査内容 結果 		

○第三者評価・表彰等

- ・第三者評価・表彰等は、「建設技術審査証明」、「建設技術評価」、「その他の制度等による証明」で構成されています。
- ・「入力する」のタブをクリックすると入力画面が表示されますので、以下の情報を入力、選択します。
- ・番号は正確に入力してください。
- ・証明書は【添付資料〇】として添付して下さい。

①建設技術審査証明

- ・建設技術審査証明とは、建設技術審査証明協議会会員の国土交通省所管である公益法人による技術審査及び証明を示します。但し、過去に建設技術証明を取得した技術であっても、有効期間が過ぎているものは、当該の証明が有効とはなりません。
- ・建設技術審査証明がある場合は「建設技術番号」、「評価年月日」(カレンダーから選択)、「評価機関」、「URL」を入力してください。

②建設技術評価

- ・建設技術評価とは、昭和 53 年建設省告示第 976 号に基づいて、国土交通省（旧建設省）が開発課題を提示し、それに対して民間が開発する技術を建設技術評価委員会の結果を受けて、国土交通大臣が評価を与えた技術を示します。
- ・建設技術評価を受けている場合は「建設技術評価番号」、「評価年月日」（カレンダーから選択）、「URL」を入力してください。

③その他の制度による証明

- ・その他の制度等による証明とは、他省庁等で行っている制度（ものづくり日本大賞、国土技術開発賞等）を示します。
- ・該当がある場合は「制度の名称」、「番号」、「証明年月日」（カレンダーから選択）、「証明機関名称」、「証明範囲」、「URL」を入力してください。

④項目追加

- ・項目を追加して、任意の評価等の内容（証明項目、試験・調査内容、結果）を記入できます。

23. 「実験等実施状況」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」 2.「分類・区分」 3.「キーワード」「開発目標」

4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」 5.「概要」 6.「概要写真」「概要表」 7.「新規性及び期待される効果」 8.「効果写真」「効果表」

9.「技術概要（アブストラクト）」 10.「適用条件」 11.「適用範囲」 11-2.「適用される基準」 12.「留意事項」 13.「従来技術との比較（経済性・工程）」

14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」 15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」 16.「施工単価」

17.「費用内訳表」「歩掛」 18.「施工方法」 19.「今後の課題とその対応計画」 20.「施工実績」 21.「特許・実用新案」 22.「第三者評価・表彰等」

23.「実験等実施状況」 24.「添付資料」 25.「参考文献」 26.「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」 27.「比較表」

28.「震災NETIS」 29.「維持管理NETIS」

実験等実施状況 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

- ①
- 【例】
1. 試験実施日 :
 2. 試験場所 :
 3. 目的 :
 4. 試験方法 :
 5. 試験結果 :
 6. 考察 :

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

実験等実施状況
写真

実験等実施状況
写真タイトル

③
実験等実施状況表

[illegible]

実験等実施状況表
タイトル

◎「実験等実施状況」の記載は下記の通り必須です。

＜新技術の定義＞

「新技術」とは、技術の成立性が技術を開発した民間事業者等により実験等の方法で確認されており、実用化している公共工事等に関する技術であって、当該技術の適用範囲において従来技術に比べ活用の効果が同程度以上の技術又は同程度以上と見込まれる技術を言う。

①実験等実施状況 (②写真・③表)

- ・試験施工や室内実験等、実施した内容あるいは結果について、その写真またはグラフ等を貼付 (②へ) して記述してください。
- ・試験項目や名称等を具体的に、また結果等も表 (③へ) にまとめられていると分かり易いと思います。
- ・下記の例に従って、実験結果により従来技術あるいは技術基準と比較して、どのような効果があるかまで考察して、記入して下さい。

【例】

1. 試験実施日： 令和〇年〇月〇日
2. 試験場所： 〇〇試験センター
3. 目的： 〇〇において安全であることを確認する。
4. 試験方法： 〇〇〇〇試験により測定する。
5. 試験結果： 基準値：〇〇mm
従来技術測定値：〇〇mm、新技術測定値：〇〇mm
6. 考察： 試験結果では従来技術、新技術ともに基準値を満たし、尚且つ従来技術の試験結果を上回ることから、品質の向上（効果）が図られる。

◎ここに記載した内容は改めて、【24. 添付資料】(P33)に添付する必要があります。

- ・実験及び試験施工等の報告書、報文及びパンフレット等の資料がある場合は、【添付資料〇】のおもて紙に1.～6.のフォーマットを作成し、その後ろに報告書等の詳細な資料を添付してください。
- ・報告書及び報文等がない場合は、1.～6.のフォーマットで、【添付資料〇】を作成し、可能な限り根拠となる資料を追加してください。
- ・根拠となる箇所は赤囲みをしてください。

24. 「添付資料」

1.「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」	
6.「概要写真」「概要表」	7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」	11.「適用範囲」
11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	13.「従来技術との比較（経済性・工程）」	14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」		
15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16.「施工単価」	17.「費用内訳表」「歩掛」	18.「施工方法」	19.「今後の課題とその対応計画」	20.「施工実績」
21.「特許・実用新案」	22.「第三者評価・表彰等」	23.「実験等実施状況」	24.「添付資料」	25.「参考文献」	

※ファイルはPDF形式のみとし、登録した添付資料の合計が50MBまでとさせていただきます

添付資料

①

添付資料1

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

タイトル 【添付資料1】 資料名

添付資料2

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

タイトル 【添付資料2】 資料名

添付資料3

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。

：

：

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

タイトル

添付資料

申請する新技術について、技術の成立性、適用性等を確認するための実験資料、積算資料等があれば、その資料を示す名称を記入して下さい。
パンフレット、学会等での発表論文（コピー可）等は、添付資料に含みます。
技術詳細説明資料（様式3）で記載する「⑦添付資料名・番号（根拠データ等）」の内容との整合を取るようして下さい。
ここに記入する資料は、NETIS閲覧者の要請に応じ、NETIS申請者より提供できるものとします。
提供できない資料については、記入の必要はありません。
注）提出して頂いた資料は、ご返却しませんのでご了承下さい。

①添付資料

(1) 添付する資料

- 以下の資料は必ず添付願います。
 - 新技術の概要が分かる資料、パンフレット（【5.概要】（P8））
 - 従来技術の根拠（【5.概要】（P8））
 - 根拠資料（旧様式3）＜⑦添付資料名・番号（根拠データ等）＞に示される資料（【14.従来技術との比較】（P20））
 - 施工条件（【16.施工単価】（P24）、関連する図面、資料等を添付）
 - 積算条件（【16.施工単価】（P24）、積算・歩掛・単価の算出根拠・工程表を添付）
 - 実験等に関する資料（【23.実験等実施状況】（p32））
- 施工実績、特許等、第三者評価等がある場合は添付願います。
 - 施工実績（【20.施工実績】（P28～29））※
 - 特許証・実用新案証明書のコピー（【21.特許・実用新案】（P30））※
 - 第三者評価等の証明証、表彰状のコピー（【22.第三者評価・表彰等】（P30））※
- その他必要に応じて資料を求める場合があります。

(2) タイトルとファイル名の付け方

- タイトルとファイル名を統一して、下記の通り記述して下さい。

＜タイトル＞

【添付資料1】 資料名

【添付資料2】 資料名

【添付資料3】 資料名

：

＜ファイル名＞

【添付資料1】 資料名.pdf

【添付資料2】 資料名.pdf

【添付資料3】 資料名.pdf

：

(3) 添付資料の体裁

- 各資料のトップページ（右肩）に、【添付資料○】と記載して下さい（pdf機能のテキスト入力等を使用）。
- 資料が複数ページの場合は、必ずページ番号を振って下さい。（pdf機能のヘッダ・フッタ等を利用）

(4) 根拠の明示

- 根拠とした部分には、必ず【添付資料○】の該当箇所に**赤囲み**をするようにして下さい（pdf機能の枠挿入等を使用）。
- たとえば、【14.従来技術との比較】の①～④に記載されている内容が、資料のどの箇所（文章、図等）を参照して判断されたものかが分かるように、**赤囲み**をするようにして下さい。

(5) 開示できない資料の取り扱い

- 開示できない資料等に関しては、【参考資料】等としてアップロードしてください。
- 最終的には、【参考資料】等としてアップロードされた資料は削除し、開示できないようにします。

25. 「参考文献」

1.「技術名称」「期間」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」
6.「概要写真」「概要表」	7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」
11.「適用範囲」	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	13.「従来技術との比較（経済性・工程）」	14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16.「施工準備」	17.「費用内訳表」「歩掛」	18.「施工方法」	19.「今後の課題とその対応計画」
20.「施工実績」	21.「特許・実用新案」	22.「第三者評価・表彰等」	23.「実験等実施状況」	24.「添付資料」
25.「参考文献」	26.「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	27.「比較表」	28.「震災NETIS」	29.「維持管理NETIS」

参考文献 全角1000文字以内。半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

参考文献

添付資料以外のもので、申請する新技術において参考にした文献を記入して下さい。

○参考文献

- ・参考文献は規格値等を引用した書物、論文等を記入します。
- ・ない場合は「特になし」と記入してください。
- ・全角 1000 文字以内で記入して下さい。
- ※開示できない資料はここでは記入しないでください。
（【24.添付資料】（P33）に【参考資料】等としてアップロードして下さい。）

26. 「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」

1.「技術名称」「期間」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」
6.「概要写真」「概要表」	7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」
11.「適用範囲」	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	13.「従来技術との比較（経済性・工程）」	14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16.「施工準備」	17.「費用内訳表」「歩掛」	18.「施工方法」	19.「今後の課題とその対応計画」
20.「施工実績」	21.「特許・実用新案」	22.「第三者評価・表彰等」	23.「実験等実施状況」	24.「添付資料」
25.「参考文献」	26.「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	27.「比較表」	28.「震災NETIS」	29.「維持管理NETIS」

①

その他

※写真や図などは、GIFあるいはJPEG形式の画像ファイルにしてください。
※画像の横幅は最大でも横600ピクセルにおさまるようにしてください。

その他写真1

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または

 ファイルが選択されていません

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

その他写真1

タイトル

:

:

②

その他ダウンロード資料(カタログ、独自技術設計マニュアル、積算基準等)

その他資料①

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。
または

 ファイル……いません

※ファイルはPDF形式のみとし、20MBまでのものとしてください。

タイトル

:

:

①その他（写真及びタイトル）

- ・【6.概要写真】（P9）、【8.効果写真】（P11）、【18 施工方法】（P26）で使用しなかった写真を3つまで選択できます。
- ・申請する新技術が良く分かる写真（原則カラー）を使用して下さい。
- ・選択ボタンを押すと「ファイルを開く」という画面が出て画像ファイルを指定できます。
- ・写真タイトルを必ず記入して下さい（全角 25 文字以内）。
- ・写真（図）等のファイル形式は、JPEG あるいは GIF 形式を使用して下さい。
- ・画像ファイルの大きさは 2MB 以内にして下さい。
- ・画像の横は最大 600pixel 以内、縦は 1000 pixel 以内にして下さい（縦 A4 サイズで出力できる）。
- ・図面を利用する場合は、プリントアウトした時に文字や数字等がはっきり分かるものを使用して下さい。

②その他ダウンロード資料

- ・申請技術に関するカタログ、独自設計マニュアル、積算基準等を3つまで選択できます。
- ・ファイルはPDF形式のみとし、20MB までのものとしてください。
- ・資料のタイトルを必ず記入して下さい（全角 25 文字以内）。
- ・画像が 2MB を超える、あるいは図面の文字が見つからない場合は、PDF ファイルとしてこちらにアップロードすることも可能です。

27. 「比較表」

1. 「技術名称」「副題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2. 「分類・区分」	3. 「キーワード」「開発目標」	4. 「開発体制」「開発会社」「開発先」	5. 「概要」
6. 「概要写真」「概要表」	7. 「新規性及び期待される効果」	8. 「効果写真」「効果表」	9. 「技術概要（アブストラクト）」	10. 「適用条件」
11. 「適用範囲」	11-2. 「適用される基準」	12. 「留意事項」	13. 「従来技術との比較（経済性・工程）」	14. 「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15. 「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16. 「施工準備」	17. 「費用内訳表」「歩掛」	18. 「施工方法」	19. 「今後の課題と対応計画」
20. 「施工実績」	21. 「特許・実用新案」	22. 「第三者評価・表彰等」	23. 「実験等実施状況」	24. 「添付資料」
25. 「参考文献」	26. 「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	27. 「比較表」	28. 「震災NETIS」	29. 「維持管理NETIS」

①

類似技術
(最大5件まで比較可能)

①-1 類似技術の追加

①-5 類似技術のリセット

NETIS番号

技術名称

①-2

NETIS番号を入力してください。
※NETIS番号は、情報種別記号（-A、-VE等）を除く形で入力してください。
(例：KT-123456)

NETIS番号を入力

①-3 追加

比較表

	新技術 新規申請	従来技術
工法概要	書き方のポイントを示す。	
概略図		

①-4

既存のNETIS登録技術
G-Aシート

本技術はシートの数値により応力緩和効果形成するリフレクションクランプ抑制シートであり、従来技術はガラス繊維補強

①類似技術

- ・類似技術がある場合は必ず入力し、ない場合、あるいは後から入力する場合は②へ進んでください。
- ・「類似技術の追加」(①-1)を押すと「NETIS 番号入力画面 (①-2)」が現れます。
- ・類似技術の NETIS 番号を入力し「追加」(①-3)を押すと、比較表に類似技術が追加されます (①-4)。
- ・「類似技術のリセット」(①-5)を押すと類似技術が削除されます。

②比較表

- ・【比較表の目的】発注者が活用等を検討する際に、従来技術や類似技術と比較検討するための参考資料とし、「経済性」、「工期・工程」、「品質」、「出来形」、「現場条件」、「設計条件」、「安全性」等を対比した比較表です。新技術及び類似技術と比較可能となるよう、従来技術について記載して下さい。
- ・新技術及び類似技術については「備考」、「総合評価」を除き全て自動で入力されます。
- ・従来技術の欄のうち、以下の事項 (②-1) は必ず記入し、概要図は必ず添付してください。
 - 工法概要：従来技術の概要を簡潔に記入してください。
 - 概要図：従来技術の概要が確認でき、視覚的に特徴がつかみやすい写真や画像、又はフロー等を入れてください。
 - 経済性及び工程・工期：【13. 従来技術との比較】(P17)で記述した内容に合わせて定量的に記入してください。
 - 品質、現場条件、設計条件、安全性、施工性及び周辺環境への影響：【14. 従来技術との比較】(P18)や「根拠資料の入力」(詳細説明資料)で記述した内容に合わせ、新技術や類似技術との比較が可能となるように記入してください。
- ・新技術の総合評価欄 (②-2) は自身で評価し、「◎」「○」「△」「×」のいずれかを選択してください。

②

比較表

	新技術 新規申請	従来技術
工法概要	書き方のポイントを示す。	
概略図		
経済性	0円/0 (同程度)	0円/0
評価	-	-
工程・工期	0日/0 (同程度)	0日/0
評価	-	-
品質	-	-
評価	-	-
現場条件	-	-
設計条件	-	-
安全性	-	-
評価	-	-
施工性	-	-
評価	-	-
周辺環境への影響	-	-
評価	-	-
自由項目		
評価	-	-
自由項目		
評価	-	-
NETIS番号		
備考		
総合評価	◎	-

②-1

②-2

28. 「震災 NETIS」（登録を希望する場合）

1.「技術名称」「課題」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「問合せ先」	5.「概要」
6.「概要写真」「概要表」	7.「新規性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」
11.「適用範囲」	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	13.「従来技術との比較（経済性・工程）」	14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16.「施工事例」	17.「費用内訳表」「歩掛」	18.「施工方法」	19.「今後の課題とその対応計画」
20.「施工実績」	21.「特許・実用新案」	22.「第三者評価・表彰等」	23.「実証等実施状況」	24.「添付資料」
25.「参考文献」	26.「その他（写真）」「その他ダウンロード資料（カタログ、独自技術指針等）」	27.「比較表」	28.「震災NETIS」	29.「維持管理NETIS」

①

☒ 震災NETIS項目を登録する。

② ジャンル

がれき・土砂処理	☐ 収集	☐ 分別	☐ 再生	☐ 処分
ライフライン復旧	☐ ライフライン復旧			
液状化対策	☐ 液状化対策			
補修・修復	☐ コンクリート構造物	☐ 橋梁	☐ 道路	☐ 河川護岸
	☐ 海岸	☐ その他（ ）		
仮設	☐ 足場	☐ 照明	☐ 仮設トイレ	
	☐ その他（ ）			

③ 震災対応上の特徴

全角150文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④ 関連URL

⑤ 災害対応関連工事・業務における活用実績

活用工事・業務件数 件

実績1

工期開始		日付
工期終了		日付
災害名	選択無し ▼ その他（ ）	
工事・業務名		
発注者		

◎登録を希望されない場合は記入不要です。

○震災 NETIS とは

新技術活用システム(NETIS)に登録された技術を対象として、震災復旧・復興に資する技術を NETIS 申請書により募り、広く情報提供することで、震災復旧・復興の現場における活用を支援するサイトです。

①震災 NETIS 項目を登録

「☐震災 NETIS 項目を登録する」にチェックを入れると各項目が入力できるようになります。

②ジャンル

該当する工種にチェックを入れてください。

③震災対応上の特徴

震災に対応する場合の特徴・対応の方法等を記入してください。（全角 150 文字以内）

④関連 URL

関連する URL を記入してください。

⑤震災対応関連工事・業務における活用実績

震災対応した施工実績件数と詳細を 5 件まで記入してください。

29. 「維持管理 NETIS」（登録を希望する場合）

1.「技術名称」「期間」「技術開発年」「記入年月日」「情報の提供範囲」	2.「分類・区分」	3.「キーワード」「開発目標」	4.「開発体制」「開発会社」「開発先」	5.「概要」
6.「概要写真」「概要表」	7.「施設性及び期待される効果」	8.「効果写真」「効果表」	9.「技術概要（アブストラクト）」	10.「適用条件」
11.「適用範囲」	11-2.「適用される基準」	12.「留意事項」	13.「従来技術との比較（経済性・工期）」	14.「従来技術との比較（品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）」
15.「その他、技術のアピールポイント等」「新技術のコストタイプ」	16.「施工準備」	17.「費用内訳表」「歩掛」	18.「施工方法」	19.「今後の課題と対応計画」
20.「施工実績」	21.「特許・実用新案」	22.「第三者評価・表彰等」	23.「登録後実施状況」	24.「添付資料」
25.「参考文献」	26.「その他（写真）」	26.「その他（ダウンロード資料（カタログ、独自技術資料等）」	27.「比較表」	28.「関連NETIS」
29.「維持管理NETIS」				

※ 維持管理NETIS項目を登録する。

①

ジャンル

トンネル内附属物 ☐ 道路 ☐ 港湾 ☐ 空港 ☐ 鉄道 ☐ ダム

トンネル ☐ 道路 ☐ 鉄道

橋梁 ☐ 道路 ☐ 鉄道

舗装 ☐ 道路

道路附属物 ☐ 道路

土工 ☐ 道路 ☐ 鉄道

係留施設外郭施設 ☐ 港湾

港交施設 ☐ 港湾

滑走路等舗装構造物 ☐ 空港

②

点検等
上の特徴

全角150文字以内

③

点検等
対象の材質

全角150文字以内

④

点検等
対象の材質

全角150文字以内

⑤

点検等
の項目

全角150文字以内

⑥

新技術の活用により
期待される効果

全角150文字以内

⑦

関連URL

⑧

公募

◎登録を希望されない場合は記入不要です。

○維持管理 NETIS とは

新技術活用システム(NETIS)に登録された技術を対象として、点検等に資する技術を NETIS 申請により募り、広く情報提供することで、点検等の現場における活用を支援するサイトです。

①維持管理 NETIS 項目を登録

「☐維持管理 NETIS 項目を登録する」にチェックを入れると各項目が入力できるようになります。

②ジャンル

該当する工種にチェックを入れてください。

③点検等上の特徴

維持管理等に対応する場合の特徴・対応の方法等を記入してください。（全角 150 文字以内）

④点検等対象の材質

維持管理等に対応する材質を記入してください。（全角 150 文字以内）

⑤点検等の項目

維持管理等の項目を記入してください。（全角 150 文字以内）

⑥新技術の活用により期待される効果

申請技術の活用により維持管理等について期待される効果を記入してください。（全角 150 文字以内）

⑦関連 URL

関連する URL を記入してください。

⑧公募

テーマ設定型（技術公募）に参加している、もしくは選定されている技術である場合は、その技術テーマ（技術公募）名を記載して下さい。

⑨ 点検関連工事・業務等における活用実績

⑨-1 活用工事・業務件数 件

⑨-2 実績1 ※画像サイズ：600ピクセル（自動的にリサイズされます）。

工期開始	
工期終了	
点検等名	
工事・業務等名	
発注者	
写真	ファイルをドラッグ&ドロップしてください。 または ファイルの選択 ファイルが選択されていません

登録済み写真名:
※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

⑨点検関連工事・業務における活用実績

- ・維持管理等に関連した施工実績件数と詳細を5件まで記入できます。
- ・⑨-1で「活用工事・実績件数」を記載して下さい。
- ・⑨-2で「工事開始」、「工事終了」の日時をカレンダーより選択、「点検等名」、「工事・業務等名」、「発注者」を入力し、「写真」を添付して下さい。